

## 特集

- ・ 令和5年度教育行政執行方針
  - ・ 学校づくり事業
- 〈中頓別学園基本計画について〉

## 広報

なかとんべ

No.760

2023 4 April



○中頓別中学校卒業式の様子  
中頓別中学校卒業式の詳細は、P9「まちの話題」をご覧ください。

まち  
小さな中頓別の  
しあわせをデザインする





# 令和5年度教育行政執行方針

中頓別町教育長

相座 豊



## 1 教育行政に臨む基本姿勢

令和5年第1回定例会の開会にあたり、中頓別町教育委員会の所管行政の執行に関する主要な方針を申し上げます。

現在、日本ではインターネットをはじめとした情報社会がめまぐるしく進展してきています。この先、人工知能(AI)が発達し、目に見えない情報空間と現実社会がより一体となつて、新たな生活空間を生み出す Society(ソサイエティ)5.0の時代に向かうと同時に、人生100年時代と言われる新しい社会の到来、あわせて、国際化への劇的な変化を求められております。子どもたちは無限の可能性を秘めた、これからの社会を支える重要な人材です。中頓別町は「人生100年の学びの拠点」として、子どもと町民がふれあひながら学ぶ社会教育機能をもたせた学校建設に取り組むとともに、新型コロナウイルス感染症により休止に至つ

た様々な事業を元に戻していきながら、町民同士、町民と子どもが良好な人間関係を構築できるような、いつまでも気軽に学び続け、秘めた可能性を開花させていけるような新しい教育環境を整えていきます。それでは、教育行政執行に当たり令和5年度の重点政策について申し上げます。

## 2 重点政策の展開

(1)子どもと町民がふれあう「人生100年の学びの拠点」づくりについてであります。

1つ目は、学校建設についてです。長年の課題であった、中頓別中学校の校舎老朽化に伴う新築について検討を重ねてきたところですが、昨年度は文部科学省「新しい時代の学びの環境整備先導的開発事業」に応募したところ全国2か所のみ指定のうち本町がその1か所として採択されました。

これは、①急速な人工知能(AI)の発達などにより、誰も予測できない職業や社会に向かうことが予想される「新しい時代」で豊かな心をもって生き抜く人を育む「学び」を展開できる学校、②子どもと町の人々が交流しながら地域全体で子どもを見守り育てる学校、③町内1か所ずつしかなくなった幼児教育施設の認定こども園、小学校、中学校を一貫した教育方針でつなぐ中頓別学園設立という3つの課題を、町の図書室などの機能を集約

化し、子どもだけではなく大人も利用できる「学びの拠点」としての環境整備構想が、老朽化した公共施設を抱え苦慮している多くの自治体の「先導的開発」に当たるといふ評価を受け採択されたものです。

令和5年度は、現在進行している基本設計について適宜情報公開や意見聴取を行い、子どもだけではなくより広く、町民の皆さんにも親しまれる施設になるよう実施設計に反映させる予定であります。

2つ目は、中頓別学園の教育内容充実についてです。

令和5年度は、校舎建設と同時に一貫した教育内容づくりに着手しなくてはなりません。これまで、学園のコンセプトとして掲げてきた「自然を生かした教育」と「英語教育」の充実を図るために、中頓別町教育大綱の見直しを図り、教育理念の具体化、教育目標の策定など、教育課程を編成するために必要な条件を整備する必要があります。

そつした条件整備に合わせ、町民と子どもたちの交流促進を図る学校運営協議会や地学協働本部事業など組織運営の在り方を想定しながら、教育課程と学校運営の具

体について整理していきます。現在、認定こども園で取り組んでいる「森のこども園」での自然体験を切り口に、子どもと大人が知恵を寄せ合つて中頓別の魅力を知り、中頓別の町づくりにつながる一貫教育を実現するために、「新しい学校づくり推進室」の業務内容に教育内容に関する検討の比重を高

め、学校と連携を図りながら開校に向けての準備を進めていきます。

また、これらの構想実現化のため指導主事を配置し、具体的な計画や開校までの校内体制の整備を進めます。

3つ目は、どの子ども元気にのびのびと学校生活を送れる子育て支援の充実についてです。

これまでも、考え方や行動が何となくみんなと違う、勉強についていけないなど、どこか困った思いを抱えながら生活してきた子どもや保護者に支援を行ってきました。特に、令和4年度からは、こども園、小、中学校、保健福祉課、教育委員会会で構成する「子ども支援ネットワーク会議」を発足させました。

そこでは、「困り感」を抱えた子どもの情報を共有し、成長に合わせた保護者の思いも受け止めた上で、個人情報保護に十分配慮しながら、より自信をもって生活できるような支援の充実を図ってきました。今後は、必要のある子が適切な数度、成長に必要な活動を補うため枝幸町まで通っている通園センターの役割を補い、枝幸町までの通園の負担を軽減できるようにしていきます。

4つ目は、子どもの発達を促す認定こども園の園庭整備についてです。令和4年度から取りかかっている認定こども園の園庭整備は、令和5年度中に完成させます。これは、単に遊具を配置するものではなく、「森のこども園」で取り組んでいる自然を通じた自主性や好奇心、体力などの力を通して、学校

の「主体的・対話的で深い学び」につなげることを目的にしています。この園庭は、こども園に入っていない子どもや休園日も使えるようにしてさまざまな力を遊びを通してながら伸ばせる施設として開放します。造成工事に関しては、日常の保育生活への影響を最小限にとどめられるよう配慮しながら行います。

(2)個性が輝き、明日の社会を担う人を育む学校教育の充実についてであります。

現在、中頓別小学校、中頓別中学校GIGAスクール構想に基づいて児童・生徒に対し1人1台端末配備をしており、日常の授業利用や必要に応じて家庭への持ち帰りなどを行っております。

新型コロナウイルスに関しては、すぐに学級閉鎖や学校閉鎖措置をとらず、タブレットを使ったりモーター学習などにより「学びを止めない」よう国の指導が変わってきております。本町では、子どもが学校に来られない場合でも、体調が悪くなければ教室の授業を家庭に同時配信し、タブレットを通して友達や先生と話しあいながら授業を行っています。

現在、黒板とチョークの順番は激減し、タブレットと画面で学習し、ノートに整理するというように授業スタイルが激変し始めています。教育委員会としても、そうしたICT活用を通して子どもの考え方や理解の状況に合わせて授業を展開し、子どもたちが一層力を発

揮できるような授業の質的向上が図られるとともに、教職員の職務の効率化による働き方改革がさらに進むよう支援していきます。

令和4年度のハワイ語学研修は、新型コロナウイルス感染症による影響で実施できませんでしたが、令和5年度は、中学2、3年生を対象に実施し、これまで参加できなかった新高校1、2年生についてもハワイで研修できるように実施方法を含めて検討してまいります。

(3)心の健康増進を図る社会教育の充実についてです。

「人生100年時代」を目前に控えている現在、社会教育にはスポーツや文化活動などの大会や講座など町民の学習要望を踏まえるとともに、現代的・社会的課題に対応できる地域社会を形成することが一層求められています。

令和5年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により実施できなかった様々な事業の実施を図るとともに、更なる充実を目指し町民同士つながりや支えあいを生み出す中頓別町をつくるための取り組みを行います。

1つ目は、「そうや自然学校」の移管についてであります。現在、「そうや自然学校」は中頓別まちづくりビューロー以下「ビューロー」が運営を行い、主管は役場産業課、主な事業推進は教育委員会がビューローなどと連携しながら行うという複雑な運営になっていますが、これを見直し教育委員会へ移

管する予定です。

令和5年度も、自然体験事業として行っている町内の小学生対象の「チャレンジ教室」やこども園の「森のこども園」は継続します。一方で、全面移管にあたっては旧敏音知小学校校舎の維持管理や指定管理、運営スタッフの確保など様々な課題が残っており、事業運営と並行してそれら課題の方向性を定める予定です。

これまでは、ビューローの施設という性格上、営業利益も勘案しながらの運営でしたが教育委員会への移管によつて、大人も対象にした自然を生かした社会教育事業の展開もしやすくなると考えております。

子どもから大人まで、町民が本町の恵まれた自然環境に触れ、その恩恵を享受しながら心身ともに豊かな暮らしの実現が図れるように検討していきます。

2つ目は、社会教育の一層の振興についてであります。昨年度は、社会教育担当者のベテラン配置により事業の円滑な展開を図りましたが、令和5年度は新たに社会教育主事有資格者の配置により、町民体育館などの社会教育施設管理やさまざまな大会運営など、一層着実な社会教育事業の振興を図ります。

一方、職員の新しい発想でフェイスブックやインスタグラムを使った事業などの情報発信、ハワイアンナイト、街角ピアノ設置、大画面でのゲーム大会などのイベント実施や、放課後子どもプランで行っている町内外の講師を招いた体験教室

や、自然素材を生かした事業実施により、これまでにない町民や子ども参加者の広がりなど、従来になりに取り組みが広がりは始めています。今後も、創意工夫しながら町民の交流を促進し、さまざまな社会教育に対する要望に幅広く対応できる取り組みを行います。

また、各種スポーツ町民大会の実施、「夢と希望を！感動体験事業」のプロスポーツ観戦などの事業再開を行いながら、従来からの事業の継続実施と新たな町民参加イベントの展開に取り組んで、一層、笑顔あふれる町にできるよう努めます。

最後に、文化財の保護などについてであります。本町は道内に2か所しかない鍾乳洞をもっています。所しかない鍾乳洞をもっています。が、それ以外にも、砂金やさまざまな動植物など貴重な自然遺産がたくさんあります。自然を含めた町の文化財を大切にしながら、町の良さを町民の皆さんと共有できるよう取り組みます。

変化の激しい現代社会、町民各自が社会の変化に応じ、それぞれ持つ資質や能力を伸長することができるよう、町民1人ひとりが必要に応じて学び続ける学校教育と社会教育を包括した生涯学習を展開できるような新たな人員配置も含めて教育委員会事務局体制を整備していきます。

町民の皆さん並びに町議会議員各位のご理解とご協力をお願い申し上げます。令和5年度の教育行政執行方針といたします。



# 学校づくり事業

## 〈中頓別学園基本計画について〉



中頓別町では、令和3年度より、令和8年度の中頓別学園開校を目指し、中学校校舎の建て替えを含め、認定こども園、小学校、中学校が連携した新しい学校づくりに向けた取り組みを進めていきます。今月号では、令和5年3月に示された、基本計画やこれからのスケジュールなどについて紹介していきます。

### 保護者アンケートの実施とあったらいい展開

令和4年2月に、認定こども園から中学生のお子さんの保護者を対象にアンケートを実施しています。「新しい学校づくりに関するアイデア」などについて、うかがっています。このアイデアの中には、得意な分野を深く学ぶ時間があると良いや異年齢の交流ができると良い、地域に開かれた学校を目指したい、木の温もりを感じられると良いなど教育内容や目指す学校像、児童生徒の交流、設備などいろいろなアイデアが出ました。令和4年3月には、新しい学校づくりについてのパネル展示とこ

な学校があったらいいなと思うアイデアを聞く「あったらいい展」が開催されました。その他に、出張なかとん学習塾では、相座教育長が書道を教えたり、ダリン先生が英語を教えたり、大島園長が算数パズルをするなどしました。なかとんコレクションの授賞式では、子ども達が制作した、こんな学校があったらいいなというアイデアを発表し合うなど多数の町民が参加し、イメージを膨らませました。

### 中頓別学園基本構想について

令和4年4月、町民の皆さんとのワークショップを通じ、基本構想ができ上がりました。新しい学校づくりでは、子どもは、地域全体で育てるといった基本的な考え方に立ち、地域の方も利用しやすく、関わり合いを持てる学校を目指します。具体的には、中頓別小学校と中学校が9年間の義務教育学校となり、「まちの人とともにつくる幼小中一貫した教育の実現に向けて」をコンセプトに「まちの人とつくる学校」、「自然を生かし地域に学ぶ教育」、「グローバル化を見す



まちの人とともにつくる 中頓別学園 義務教育学校 中頓別学園設置事業 幼小中一貫した教育の実現に向けて



図1：新しい学校コンセプト

えた英語教育の充実」の3つを柱とし、主体的、対話的で深い学びを目指していきます。(図1参照) これと並行し、文部科学省の委託事業である「新しい時代の学びの環境整備先導的開発事業」のモデル事業として、地域住民や教職員とのワークショップを実施し、さらに、具体的なイメージを膨らませていきます。

**中頓別学園基本計画について**

令和4年12月に中頓別学園基本設計について、4業者から提案がありました。その中で、「まちの皆さんとともにつくる」、「中頓別らしい場をつくる」、「みんなの夢を形にする」を基本方針としている株式会社 日建設計さんより、技術提案を受けることが決まっています。図2、3は、子どもも大人も受け入れる大きなワンルームとして、株式会社 日建設計さんが描いた、「なかとんの学び舎」となっています。

令和5年3月に、「中頓別町まちの人とともにつくる人生100年の学びの拠点基本計画」が示されました。内容としては、新しい学校の整備にあたっての現状や課題、教育理念、施設計画の方針などがあります。

現状と課題では、現在、中頓別中学校は、老朽化に伴う改築が喫緊の課題となっており、中学校校舎の整備の建設候補地として、小学校の敷地が挙げられました。このメリットは、中学校と認定こども園、小学校との距離が近く、義務教育学校として機能がしやすい点や町民センターなど既存の建物を改修し、図書館など学校に併設した「コミュニティ施設を整備できる点にあります。子ども主体に考え、小学校の敷地とすることで、施設一体型の義務教育学校が実現できることや認定こども園との距離が近く、交流や連携がしやすいこと、町民センターなどの既存の建物を改修して、図書館など学校に併設した「コミュニティ施設を整備できることから、人生100年を健康に生きるための学びの拠点づくりの実現を目指していきます。また、教育理念では、対話を通して、多様な価値観の中で学ぶ共生、



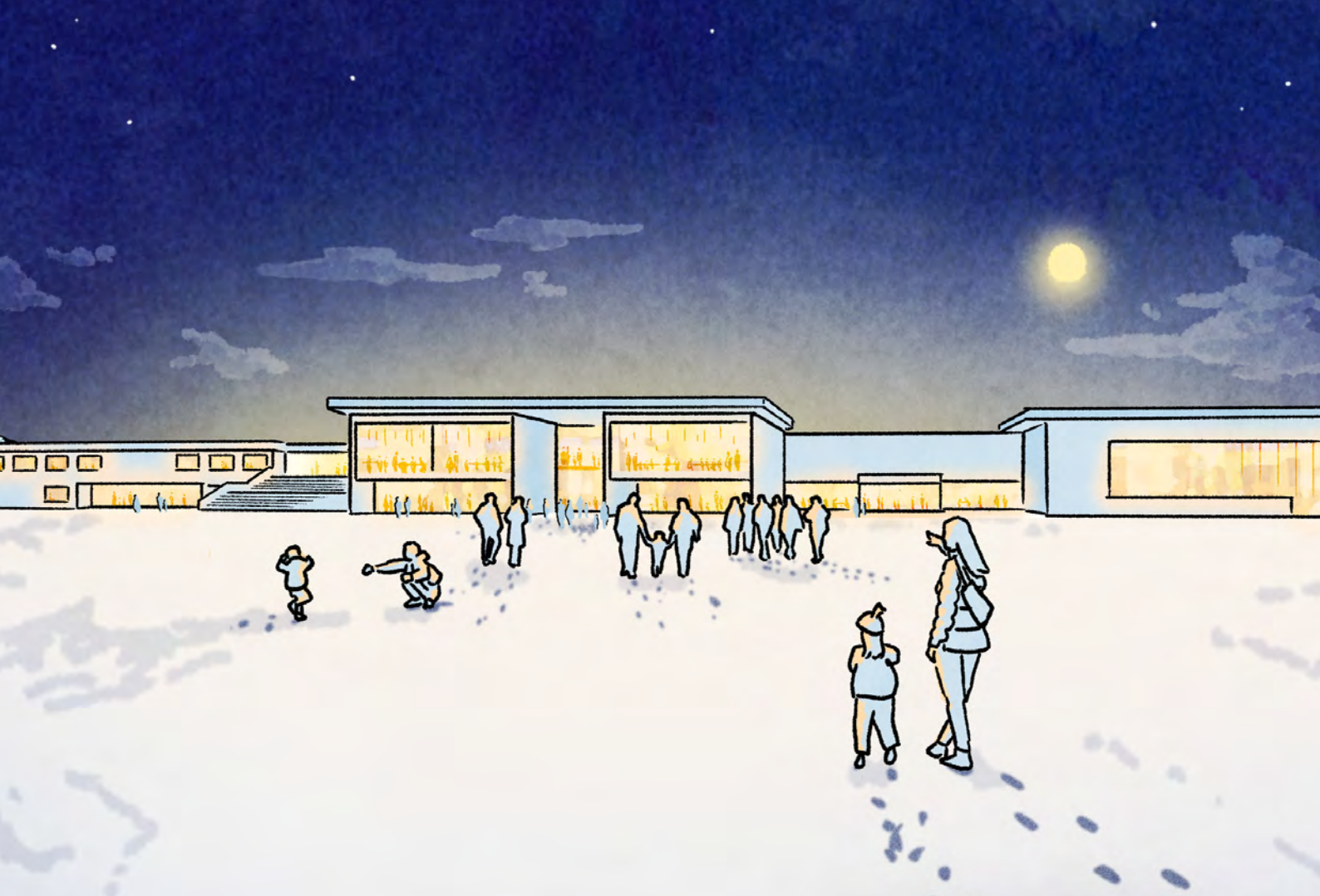


図 2：株式会社 日建設計さん作成

わくわくすることを大切にする好奇心、一緒にやってみる共創を柱に、地域資源である環境・自然を活用し、対話・協働をベースとした新しい時代の学びを進めていきます。

### 拠点整備の方針について

拠点整備の方針では、次のことを重視しています。

①地域の学びや活動の拠点となるにぎわいのある施設、②地域の自然の豊かさや環境を5感で感じ、ゼロカーボン社会を体現する施設、

③多様な学習を可能にする多機能な施設整備、④空間の集約・共有による施設のコンパクト化、⑤積雪

地域の特性に考慮した施設、⑥居心地がよく快適に学べる教育環境、⑦安全・安心な施設環境をコンセプトとし、拠点整備を行います。

次に、施設配置方針では、①既存施設を活用した施設配置、②義務教育学校の特性に配慮した施設配置、③学校と社会教育施設の一体的運営を可能とする施設配置、

④安全性を確保した施設配置、⑤快適さを確保した施設配置の5点を重視し、検討します。

①既存施設を活用した施設配置では、町民センターを解体し、小学校を増改築しながら、施設を活用できる施設配置とし、既存施設の解体や増改築などを検討していきます。また、小学校と町民センターの用地境界にある排水溝については、工事を実施し、安全を確保していきます。

②義務教育学校の特性に配慮した施設配置では、身長差や体格差に配慮した空間構成や施設配置とし、児童達が日常的に交流できる空間や導線に配慮した施設配置とします。

③学校と社会教育施設の一体的運営を可能とする施設配置では、町立図書館と学校図書館の一体化や学校体育館の地域開放など日常的に児童や大人達が活動でき、誰もがどこでも学びの場となるる施設と、障がいの有無や世代に関わらず、お互いに学び合える施設を整備していきます。

④安全性を確保した施設配置で



# 学びの広場

## 町立図書館及び学校図書室

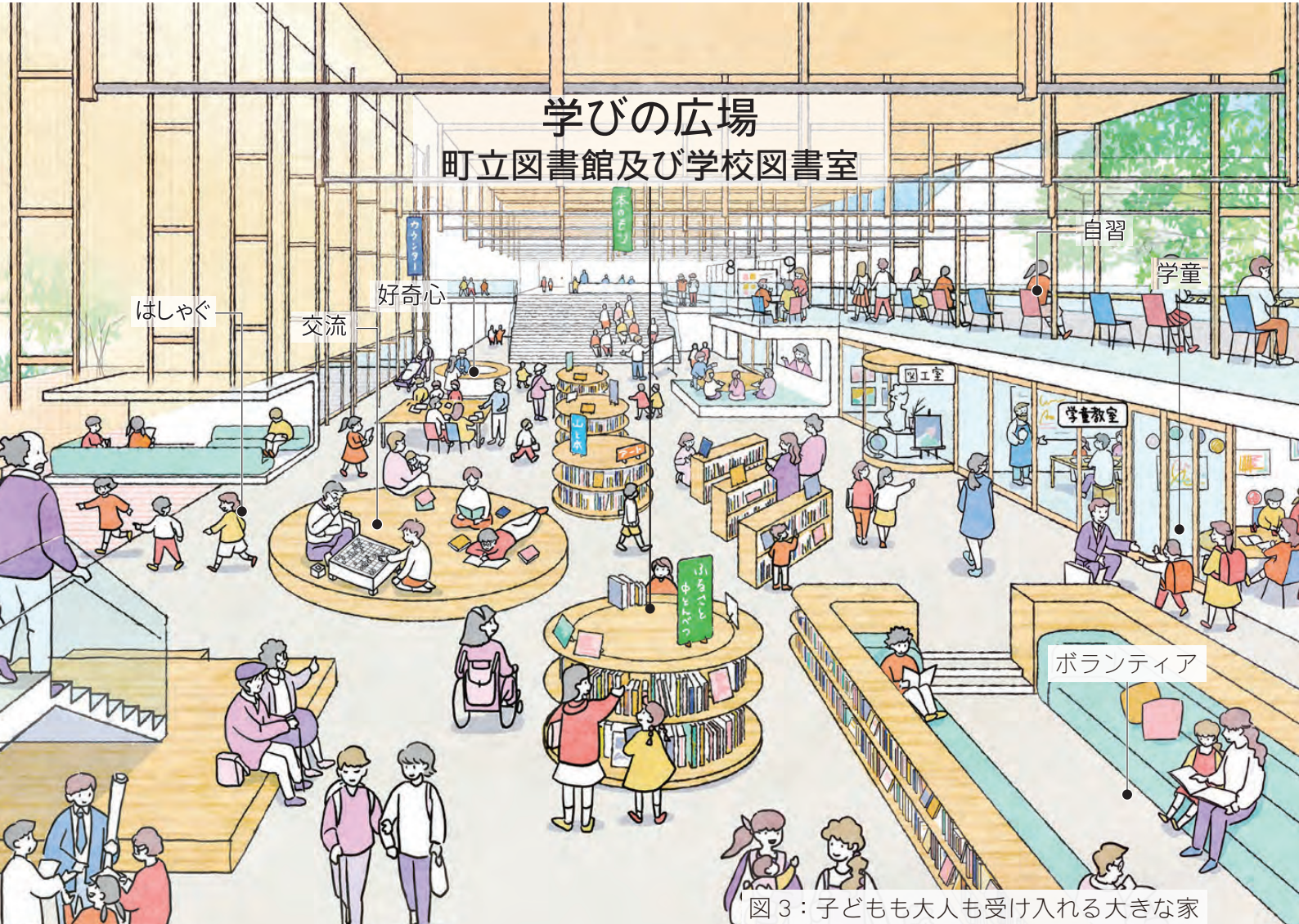


図3：子どもも大人も受け入れる大きな家

は、児童達の通学路や敷地周辺道路の安全確保や既存の建物を増改築し、空間を一体化することで、冬場であっても快適に室内移動できる様に計画しています。

⑤ 快適さを確保した施設配置では、各教室の眺望や採光に配慮した施設とします。

以上の5つを基本方針とし、将来の児童数や教育内容の変動などに対応できる施設とし、図書館を学びの場の中核とすることで、子どもから大人まで集うことができる空間づくりや学び続けることができる環境づくりを行っていきます。また、活動に応じて柔軟に活用できるオープンスペースを設けることで、アクティブラーニング型の授業を行っていきます。

第5回中頓別学園設置協議会では、東京大学大学院教育学研究科 牧野篤教授からは、「地域と学校が一緒になって子どもを育てる、子どもが100年生きられるような基礎を学校で学ぶので、その後は、学び続け、自分の人生を皆と一緒にになって作っていくような社会となる。従来の様に社会教育と

学校教育を分けるのではなく、生涯教育という形で、老いも若きも一緒に学んでいくということが大事。学んだことを教え合いながら、新しい価値を作っていくということが、人生100年の学びの拠点に関わってくるのではないかと。高齢化と人口減少に悩んでいる地方の自治体は最先端で、子ども達を学校という場所に隔離するのではなく、学校の中に社会があり、社会の中に学校があるということで子ども達が価値を作り、そこに大人も関わることで、新しい価値が溢れ、楽しさも溢れる学校になれば良いのではないかと。これが中頓別町で実現されると10年後に子ども達が社会に貢献してくれる人材になるのではないかと話されました。

### 今後のスケジュールについて

令和8年度の開校を目指し、令和4年4月に策定された基本構想を基とし、基本計画の策定が令和5年3月に行われました。同年9月ごろを目途に建設基本設計、実施設計を経て、令和6年度中に着工となる予定です。